

週 報

1990年8月12日 聖霊降臨節第11主日

巻 11

20号

1990年度教会主題

「新会堂を献げる」

聖句 それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。

ルカによる福音書 6章48節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集會を守る。
 2. 新会堂を完成させていく。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13994

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄

一牧師室から一

平和聖日に二宮教会の高戸竹二牧師に説教をお願いした。先生はサハリン残留韓国・朝鮮人に対し日本は責任があることを訴えるため稚内から東京まで行脚された。私は、先生のお年でやり抜かれた気力に感嘆し、それほどまでに駆り立てられた思いをお聞きしたかった。「戦争責任を担う47年」という説教題で、先生の一生を証してくださった。軍事色一色の中で青春時代を過ごされたが、献身して神学校に行かれた。先生は、この戦争が「聖戦」と言えるのか又、戦争という人殺しと聖書の「殺してはならない」という戒めはどう関わるのか、二つの疑問を持ち続けられた。神学校で「半島の人」と言われた朝鮮人の友と寝食を共にし、親しく交わった。しかし、彼らの苦悩を知ることはなかった。学徒動員で戦争に行き、長野で終戦を迎えた。戦後、卒業して岡山の教会に赴任し、ここで初めて日本と朝鮮半島の歴史を読み、日本の蛮行を知らされた。

土地と財産を奪い、男性を日本兵と強制労働者に、女性を慰安婦にした。そして、言語、文化を奪い、天皇の赤子として徹底的な日本人化政策を進めた。ところが戦後「あなたがたは日本人でない」と放置した。それがサハリン残留韓国・朝鮮人である。彼らの無念と望郷の思いはどれほどであろうか。神学生時代、なにげなく交わった朝鮮人の友の心の痛み、うめきを知らなかった無知を恥じた。それから先生は韓国・朝鮮人問題にこだわり続けた。それは正に先生にとっての戦争責任であり、贖罪であった。

先生は「良きサマリヤ人」の聖書から「私はこの強盗の弟であり息子である」と話された。又、牧師は伝道することが第一の務めであるが、目の前だけのことでなく大局的に歴史を見る視点の必要であることを力説された。教団は23年前の復活日に「戦争責任告白」を公にした。この告白を実質化することが、教会の平和に対する責任であると私は信じている。